

## 森は海の恋人（5） カーボンニュートラル

カーボンニュートラルという考え方があります。

動植物が呼吸で排出する二酸化炭素の量と植物が光合成で吸収する二酸化炭素の量が釣り合っていて、地球の大気中の二酸化炭素の量が一定に保たれている状態のことをカーボンニュートラルと言います。自然の生態系は基本的にカーボンニュートラルが保たれています。

人は植物が光合成して大気中から吸収した二酸化炭素を基にして作られた野菜や果物を食べて身体を形成しています。植物も人の身体も炭素からできていると言っているようです。

また人は呼吸して二酸化炭素を大気中に返しています。肉を食べることもありますが動物のエサもその元をたどれば植物の光合成にたどり着きます。森では光合成で作られた樹木の落ち葉や朽ちた幹・根をエサにして生きている微生物が呼吸してまた大気中に二酸化炭素を放出しています。人も自然界の炭素循環の一員なのです。

温暖化の原因とされる大気中の二酸化炭素の増加はどうして起こったのか？

カーボンニュートラルが保たれなくなったから。それには大きく二つの原因があげられます。

まず一つは化石燃料の燃焼。

地上ではなく地中に埋もれていた石油石炭や天然ガスなど炭素でできている化石燃料を燃やして大気中に二酸化炭素を放出してしまった。地中から大気中に炭素を移動させてしまった。

もう一つは森林伐採。

二酸化炭素を吸収して保水でなく保炭する役割のある森の樹木をクリアカットすることで地上の保炭力が低下し大気中の二酸化炭素を充分吸収できなくなった。

広葉樹林を伐採して建築資材用に針葉樹を植林した日本は、輸入建材の方が安くなったので針葉樹の人工林の手入れを怠り荒廃したという話をこのエッセイの第2回に書きましたが、その海外から輸入した建築資材はカナダやインドネシアの森林を大量に伐採（クリアカット）した物だったのです。日本国土の広葉樹林を針葉樹林に変えて荒廃させ、世界の森林を大量に伐採して日本の建築物が建てられている。これが現実なのです。

次回は海底湧水についての予定です。

推薦図書：学んでみると生態学は面白い 伊勢武史著（BERET SCIENCE）

TENSION 井上好司